

プリザーフロマイクロシャントについて

プリザーフロマイクロシャント（以下、プリザーフロ）は眼圧を下げる緑内障手術に用いられる細い管です。全長は8.5mmで、1円硬貨の半分以下のサイズです。2022年に日本国内で使用が認可されました。材質はSIBSと呼ばれる透明な樹脂（心臓の治療で使用する冠動脈ステントでも使用されています。）で金属ではないためMRI検査に影響はありません。



この細い管を眼の「結膜」の下から「前房」に差し入れることにより、前房の房水を結膜の下に流して眼圧を下げます。

当院で行う緑内障手術には、程度の軽い順に「レーザー手術」、「流出路再建術」「濾過手術」「インプラント手術」がありますが、プリザーフロはインプラントを使用した濾過手術になります。

手術の対象

点眼による眼圧下降治療を行っている方の中で、「今より眼圧を下げる必要がある」方が手術の対象となります。

手術の方法

手術は局所麻酔で行います。黒目と白目の境の「結膜」を切開し、強膜から前房にプリザーフロを挿入した後に、結膜を縫合して終了します。手術中に、術後の癒着形成を予防するためにマイトマイシンCという薬剤を強膜表面に塗布します。

入院期間

プリザーフロと同様の手術効果が期待できる方法として、当院で実施しているものは線維柱帯切除術、EXPRESS挿入術があります。この2つの方法は「強膜弁」を作るため、10日程度の入院を要しますが、プリザーフロは強膜弁を作らないので、3～5日の入院で行えます。術後の様子によって、入院期間の延長、追加の処置が必要になることがあります。

手術後

期待される術後の眼圧はおおむね9～15mmHgです。結膜下に房水を流すため、白目の部分が膨らむことがあります。術後の癒着化が強いと効果が減弱する事があります。感染を予防するために、術後の日常生活で衛生に注意をしていただく必要があります。

